

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学各論Ⅱ ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

諸疾患について、成因、病態生理、症状、検査、治療を学習する。

2 到達目標

諸疾患の成因、病態生理、主な症状、主な検査、治療法、予後について、キーワードをあげて説明できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「臨床医学各論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

「NHKきょうの健康」NHK出版

8 学生へのメッセージ

患者さんの施術をしていると、多くの病気の知識が必要であることを実感します。病気をすることは、いい鍼灸施術にもつながるとい担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床医学各論Ⅱ)

回数	授業内容
1	第11章 神経疾患 (1) 運動の異常
2	第11章 神経疾患 (2) 脳血管疾患
3	第11章 神経疾患 (3) 感染性疾患
4	第11章 神経疾患 (4) 脳・脊髄腫瘍
5	第11章 神経疾患 (5) 基底核変性疾患
6	第11章 神経疾患 (6) その他の変性疾患
7	第11章 神経疾患 (7) 認知症性疾患
8	第11章 神経疾患 (8) 筋疾患, 運動ニューロン疾患, 脱髄性疾患
9	第11章 神経疾患 (9) 末梢性神経疾患①
10	第11章 神経疾患 (10) 神経痛, 機能的疾患
11	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 (1) リウマチ性疾患
12	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 (2) 膠原病
13	第13章 その他の領域 (1) 小児の疾患
14	第13章 その他の領域 (2) 一般外科
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第13章 その他の領域 (3) 麻酔科
18	第13章 その他の領域 (4) 婦人科疾患
19	第13章 その他の領域 (5) 皮膚科疾患
20	第13章 その他の領域 (6) 眼科疾患
21	第13章 その他の領域 (7) 耳鼻科疾患
22	第13章 その他の領域 (8) 精神科疾患
23	第13章 その他の領域 (9) 診療内科
24	第13章 その他の領域 (10) その他
25	疾患の総合的知識整理 (1)
26	疾患の総合的知識整理 (2)
27	疾患の総合的知識整理 (3)
28	疾患の総合的知識整理 (4)
29	疾患の総合的知識整理 (5)
30	疾患の総合的知識整理 (6)
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療概論（職業倫理） ）

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

医学と医療の歴史および現代の医療制度と倫理観を認識し、現代医療に関わる制度について学習する。患者さんの良き援助者としての医療人となれるよう、はり師・きゅう師として必要な歴史と倫理を理解する。

2 到達目標

現代日本の医療制度と課題点，医療従事者としての倫理を説明できる。

3 授業の方法

配布資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に問題演習を行いますので，配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「医療概論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療現場に関わる様々な制度・法律や倫理観は医療人として，必要な知識です。知識や技術だけではなく、患者さんに寄り添える人間性も育めるよう学習して下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (医療概論 (職業倫理))

回数	授業内容
1	第1章 医学史
2	第2章 現代の医学と医療 現代医学の課題
3	第2章 現代の医学と医療 医療従事者と医療施設
4	第2章 現代の医学と医療 医療と医療経済
5	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ①
6	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ②
7	第2章 現代の医学と医療 介護保険制度
8	第3章 医療倫理 医療者の倫理
9	第3章 医療倫理 医療者 - 患者の倫理
10	第3章 医療倫理 医学 - 社会の倫理
11	第3章 施術者としての倫理
12	まとめ
13	演習問題 (1)
14	演習問題 (2)
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

現代の医療制度を認識し、はり師・きゅう師に関わる法律知識について学習する。
はり師・きゅう師として必要な医療制度を理解し、医療人としての規範を逸脱することのないようにする。

2 到達目標

あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律を中心に、免許の資格要件や業務の範囲、違反した際の罰則などを説明できる。医療従事者として基本的な関係法規の種類と内容について理解する。

3 授業の方法

配布資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に問題演習を行いますので、配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「関係法規 第7版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

鍼灸師として業務を行う上で、あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に関する知識は必須です。自身と患者さんを守るために、生きた知識を身につけましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

回数	授業内容
1	序論 法とは何か
2	第1章 あはき法 免許①
3	第1章 あはき法 免許②
4	第1章 あはき法 名簿の登録
5	第1章 あはき法 業務の範囲
6	第1章 あはき法 施術所の開設
7	第1章 あはき法 広告の制限・名称の制限
8	第1章 あはき法 罰則
9	第2章 関係法規 医事・薬事法規
10	第2章 関係法規 衛生関係法規
11	第2章 関係法規 環境衛生関係法規
12	第2章 関係法規 社会福祉関係法規①
13	第2章 関係法規 社会福祉関係法規②
14	まとめ 演習問題
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅲ（東洋医学臨床論Ⅱ） ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」・「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験における症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅲ (東洋医学臨床論Ⅱ))

回数	授業内容
1	養生について
2	第1節(1)頭痛
3	第1節(2)顔面痛
4	第1節(3)関節痛
5	第1節(4)頸肩腕痛・上肢痛・肩関節痛
6	第1節(5)腰下肢痛・腰痛・下肢痛・膝痛
7	第1節(6)胸痛
8	第1節(7)腹痛
9	第3節(1)疲労と倦怠感
10	第3節(2)発熱
11	第3節(3)冷え
12	第3節(4)のぼせ
13	第3節(5)浮腫
14	第3節(6)掻痒感, 肌荒れ, 発疹
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第4節(1)顔面麻痺
18	第4節(2)歩行異常
19	第4節(3)口渇
20	第4節(4)出血傾向
21	第5節(1)月経異常
22	第5節(2)性器出血
23	第5節(3)帯下
24	第5節(4)不妊症
25	第5節(5)つわり
26	第5節(6)骨盤位
27	第5節(7)乳汁分泌不全
28	第6節(1)疝の虫
29	第6節(2)夜尿症・小児喘息
30	第7節(1)認知症
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅳ ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

はりきゅう理論の内容をもとに、現代医学的な施術について学ぶ。

2 到達目標

西洋医学に基づく鍼灸治療について理解する。

3 授業の方法

教科書、配布プリントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

鍼灸治効機序の理解に必要な解剖学や生理学の神経を復習すること。

7 使用教材、教具

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

「はりきゅう理論 第3版」医道の日本社

授業進行に従ってプリントを配布。

8 学生へのメッセージ

はりきゅう理論の鍼灸治効機序を理解することで、再現性の高い施術ができるようになります。
神経系をしっかり復習したうえで、授業に臨みましょう。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに
講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学IV)

回数	授業内容
1	鍼灸治効の基礎知識 (1) 生体の調節
2	鍼灸治効の基礎知識 (2) 感覚
3	鍼灸治効の基礎知識 (3) 熱傷
4	鍼灸治効の基礎知識 (4) 体表の反応
5	鍼灸治効機序 (1) 運動系について
6	鍼灸治効機序 (2) 鍼鎮痛について
7	鍼灸治効機序 (3) 循環系について
8	鍼灸治効機序 (4) その他の症状について
9	西洋医学に基づく病態把握 (1) 疼痛
10	西洋医学に基づく病態把握 (2) 頭痛
11	西洋医学に基づく病態把握 (3) 顔面痛
12	西洋医学に基づく病態把握 (4) 腰痛
13	西洋医学に基づく病態把握 (5) 膝痛
14	西洋医学に基づく病態把握 (6) 下肢痛
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	西洋医学に基づく病態把握 (7) 頸肩腕痛
18	西洋医学に基づく病態把握 (8) 上肢痛について
19	西洋医学に基づく病態把握 (9) 肩関節痛
20	西洋医学に基づく病態把握 (10) 腹痛について
21	西洋医学に基づく病態把握 (11) 血圧異常について
22	西洋医学に基づく病態把握 (12) 便秘について
23	西洋医学に基づく病態把握 (13) 下痢について
24	西洋医学に基づく病態把握 (14) 歩行障害について
25	西洋医学に基づく病態把握 (15) 排尿障害
26	女性特有の症候 (1) 概要
27	女性特有の症候 (2) 月経異常
28	女性特有の症候 (3) その他
29	演習問題 ①
30	演習問題 ②
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅴ（東洋医学臨床論Ⅲ） ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」・「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験での症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅴ (東洋医学臨床論Ⅲ))

回数	授業内容
1	養生について
2	第1節(1)頭痛
3	第1節(2)顔面痛
4	第1節(3)関節痛
5	第1節(4)頸肩腕痛・上肢痛・肩関節痛
6	第1節(5)腰下肢痛・腰痛・下肢痛・膝痛
7	第1節(6)胸痛
8	第1節(7)腹痛
9	第3節(1)疲労と倦怠感
10	第3節(2)発熱
11	第3節(3)冷え
12	第3節(4)のぼせ
13	第3節(5)浮腫
14	第3節(6)掻痒感, 肌荒れ, 発疹
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第4節(1)顔面麻痺
18	第4節(2)歩行異常
19	第4節(3)口渇
20	第4節(4)出血傾向
21	第5節(1)月経異常
22	第5節(2)性器出血
23	第5節(3)帯下
24	第5節(4)不妊症
25	第5節(5)つわり
26	第5節(6)骨盤位
27	第5節(7)乳汁分泌不全
28	第6節(1)疝の虫
29	第6節(2)夜尿症・小児喘息
30	第7節(1)認知症
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学VI ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

経絡経穴概論のうち、東洋医学的施術に必要不可欠の要穴についての知識を総合的に整理し、理解を深める。

2 到達目標

- ・すべての要穴とその部位を覚える。
- ・社会から期待される鍼灸師の役割を理解し、将来の治療院経営をイメージする。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

要穴は臨床的に重要で、国家試験に頻出されます。繰り返し学び、しっかり暗記していきましょう。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社，配付プリント

8 学生へのメッセージ

担当教員が臨床で経験し、感じたことも交えて、要穴に関する必要な知識や様々な場面で期待される鍼灸師像を伝えます。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学VI)

回数	授業内容
1	授業説明, 要穴確認プリント説明
2	要穴の総合的知識整理 経穴名 (1) 五要穴
3	要穴の総合的知識整理 経穴名 (2) 五行穴
4	要穴の総合的知識整理 経穴名 (3) 背部俞穴
5	要穴の総合的知識整理 経穴名 (4) 募穴
6	要穴の総合的知識整理 経穴名 (5) 四総穴
7	要穴の総合的知識整理 経穴名 (6) 八脈交会穴
8	要穴の総合的知識整理 経穴名 (7) 奇経八脈
9	要穴の総合的知識整理 要穴名 (1) 五要穴
10	要穴の総合的知識整理 要穴名 (2) 五行穴
11	要穴の総合的知識整理 要穴名 (3) 背部俞穴
12	要穴の総合的知識整理 要穴名 (4) 募穴
13	要穴の総合的知識整理 要穴名 (5) 四総穴
14	要穴の総合的知識整理 要穴名 (6) 八脈交会穴
15	定期試験
16	答案返却および試験解説
17	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (1) 五要穴
18	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (2) 五行穴
19	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (3) 背部俞穴
20	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (4) 募穴
21	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (5) 四総穴
22	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (6) 八脈交会穴
23	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (7) 奇経八脈
24	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (8) 五要穴
25	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (9) 五行穴
26	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (10) 背部俞穴
27	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (11) 募穴
28	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (12) 四総穴
29	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (13) 八脈交会穴
30	要穴の総合的知識整理 経穴名, 要穴名 (14) 奇経八脈
31	定期試験
32	答案返却および試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅶ（東洋医学臨床論Ⅳ） ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

2年次までに学習した経絡経穴概論・臨床医学各論・東洋医学臨床論の知識を総合的に整理し、国家試験の過去問題を解きながら、鍼灸師として必要な知識を深める。

2 到達目標

- ・筋・血管・神経など解剖学的な知識で経絡・経穴を選経・選穴できる。
- ・模擬患者によるロールプレイで、鑑別を行い、疾患を特定できる。
- ・上記に関連する国試過去問および類似問題を理解し、解答できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社、「東洋医学臨床論」南江堂
「臨床医学各論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

習得した知識を臨床活用するためのトレーニングを行います。担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅶ (東洋医学臨床論Ⅳ))

回数	授業内容
1	経絡経穴の総合的知識整理 (1) 基礎
2	経絡経穴の総合的知識整理 (2) 接続, 流注
3	経絡経穴の総合的知識整理 (3) 始まりと終わり, 走行, 並び, 骨度法
4	経絡経穴の総合的知識整理 (4) 募穴, 四総穴, 八会穴
5	経絡経穴の総合的知識整理 (5) 五要穴
6	経絡経穴の総合的知識整理 (6) 手の三陰三陽経,
7	経絡経穴の総合的知識整理 (7) 足の三陰三陽経
8	経絡経穴の総合的知識整理 (8) 横並び (胸腹部)
9	経絡経穴の総合的知識整理 (9) 横並び (背腰臀部)
10	経絡経穴の総合的知識整理 (10) 筋
11	経絡経穴の総合的知識整理 (11) 神経
12	経絡経穴の総合的知識整理 (12) 血管
13	経絡経穴の総合的知識整理 (13) 奇経八脈
14	経絡経穴の総合的知識整理 (14) 現代的研究, 奇穴
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	疾患の総合的知識整理 (1) 感染症
18	疾患の総合的知識整理 (2) 消化管疾患
19	疾患の総合的知識整理 (3) 肝胆膵疾患
20	疾患の総合的知識整理 (4) 呼吸器疾患
21	疾患の総合的知識整理 (5) 腎・尿器疾患
22	疾患の総合的知識整理 (6) 内分泌疾患
23	疾患の総合的知識整理 (7) 代謝栄養疾患
24	疾患の総合的知識整理 (8) 整形外科疾患
25	疾患の総合的知識整理 (9) 循環器疾患
26	疾患の総合的知識整理 (10) 血液・造血器疾患
27	疾患の総合的知識整理 (11) 神経疾患
28	疾患の総合的知識整理 (12) リウマチ性疾患・膠原病
29	疾患の総合的知識整理 (13) その他の領域
30	疾患の総合的知識整理 (14) まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅷ（はりきゅう理論） ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

鍼灸の現代西洋医学的な治効機序について理解を深める。
後期については、国家試験に向けての対策を行う。

2 到達目標

鍼灸による治効機序を理解し、国家試験や臨床に応用できるようになる。

3 授業の方法

教科書，配布プリントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

鍼灸治効機序の理解に必要な解剖学や生理学の神経を復習すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

「はりきゅう理論 第3版」医道の日本社

授業進行に従ってプリントを配布。

8 学生へのメッセージ

学術的な研究に基づいた鍼灸治効機序を理解することで、より再現性の高い施術につながります。神経をしっかりと復習したうえで、授業に臨みましょう。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅷ (はりきゅう理論))

回数	授業内容
1	第8章 鍼灸治効の基礎知識 (1) 生体の調節
2	第9章 鍼灸治効機序 (1) 運動系
3	第8章 鍼灸治効の基礎知識 (2) 感覚 (3) 熱傷 (4) 体表の反応
4	第9章 鍼灸治効機序 (1) 鍼鎮痛① 全身性鎮痛
5	第9章 鍼灸治効機序 (2) 鍼鎮痛② 脊髄分節性鎮痛・末梢性鎮痛
6	第9章 鍼灸治効機序 (3) 循環系
7	第9章 鍼灸治効機序 (4) その他①
8	第9章 鍼灸治効機序 (5) その他②
9	第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識 第3章 刺鍼の方式と術式
10	第4章 特殊鍼法 第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類
11	第7章 リスク管理 (1) 安全対策の基本・感染対策
12	第7章 リスク管理 (2) 有害事象の種類と対処法
13	まとめ① 鍼灸治効の基礎知識と機序
14	まとめ② 鍼・灸の基礎知識と術式 リスク管理
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	はりきゅう理論の総合的知識整理 (1) 鍼の基礎知識
18	はりきゅう理論の総合的知識整理 (2) 鍼の術式
19	はりきゅう理論の総合的知識整理 (3) 灸の基礎知識
20	はりきゅう理論の総合的知識整理 (4) 灸の術式
21	はりきゅう理論の総合的知識整理 (5) リスク管理
22	はりきゅう理論の総合的知識整理 (6) 鍼鎮痛①
23	はりきゅう理論の総合的知識整理 (7) 鍼鎮痛②
24	はりきゅう理論の総合的知識整理 (8) 循環器系
25	はりきゅう理論の総合的知識整理 (9) 消化器系
26	はりきゅう理論の総合的知識整理 (10) 泌尿器系
27	はりきゅう理論の総合的知識整理 (11) その他
28	はりきゅう理論の総合的知識整理 (12) 演習問題①
29	はりきゅう理論の総合的知識整理 (13) 演習問題②
30	はりきゅう理論の総合的知識整理 (14) 演習問題③
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会はりきゅう学 ）

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

- ・社会的ニーズと鍼灸師の役割を理解する。
- ・卒業後に従事する際、適切な評価や施術ができるように学習する。

2 到達目標

社会的ニーズと求められる鍼灸師の役割と治療院で行う業務を理解し、実行することができる。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書をもとに授業をすすめます。

7 使用教材，教具

「社会あはき学」医道の日本社，配付プリント

8 学生へのメッセージ

自分になりたい鍼灸師像をイメージするためには，鍼灸師が社会から何を期待されているかを知り，考えることが必要です。担当教員が臨床で経験し，感じたことも交えて，様々な場面で期待される鍼灸師像とそのために必要な知識を伝えます。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (社会はりきゅう学)

回数	授業内容
1	施術所におけるはりきゅう治療 評価法
2	在宅医療でのはりきゅう治療 評価法
3	鍼灸師にできる機能訓練指導
4	高齢者に対する予防的はりきゅう治療 評価法
5	要介護高齢者に対するはりきゅう治療 評価法
6	鍼灸師による子どもの心身の健全な発達への援助 発達の理解
7	子どものスポーツ障害の予防と治療 評価法
8	鍼灸師による女性に特有な症状へのアプローチ① 評価
9	鍼灸師による女性に特有な症状へのアプローチ② 治療
10	ストレスが惹起する症状へのはりきゅう治療 評価
11	産業衛生におけるはりきゅう治療 評価
12	スポーツ傷害におけるはりきゅう治療 競技特性の理解
13	スポーツ傷害におけるはりきゅう治療 評価法
14	QOL 向上に求められるはりきゅう治療 評価法
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅶ ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

本講義では、日本国内の枠組みを超え、グローバルな視点から東洋医学および鍼灸の現状を解説します。日本で培われた繊細な技術に、臨床的アプローチを掛け合わせることで、多角的な視点から治療・経営を俯瞰する力を養います。

2 到達目標

- ・世界標準の理解：海外における東洋医学、鍼灸の普及状況、法制度の違い等を理解する。
- ・実践的施術の習得：患者に合わせた施術を提案・実施する。
- ・治療院開設のリアルを理解する：開業準備、資金計画、集客、リスク管理

3 授業の方法

- ・講師による解説、グループワーク
- ・講師によるデモンストレーション、学生同士ペアで実技練習

4 成績評価方法・基準

定期試験100%（後期試験を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技術の習得や上達は経験値の集積によるため、実技練習は授業内にとどまらず、繰り返しの復習を推奨します。

7 使用教材、教具

授業内容に従ってプリント類を配布。または必要教科書を持参。

8 学生へのメッセージ

AIによる情報化が進む今こそ、天然資源に頼らぬ持続可能な伝統技術として、鍼灸の身体操作の価値が再認識されています。日本鍼灸の真髄を学び、誇りを持って社会に貢献できる鍼灸師となれるよう一緒に学んでいきましょう。

9 教員氏名（ 高田忠典 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ はりきゅう実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	世界の中の東洋医学（1）
2	世界の中の東洋医学（2）
3	世界の中の東洋医学（3）
4	世界の中の東洋医学（4）
5	海外の鍼灸事情（1）
6	海外の鍼灸事情（2）
7	海外の鍼灸事情（3）
8	海外の鍼灸事情（4）
9	海外の鍼灸事情（5）
10	経絡治療（1）
11	経絡治療（2）
12	経絡治療（3）
13	経絡治療（4）
14	経絡治療（5）
15	定期試験
16	試験のフィードバック
17	様々な施術方法（1）
18	様々な施術方法（2）
19	様々な施術方法（3）
20	様々な施術方法（4）
21	社会的ニーズとはき師の役割（1）
22	社会的ニーズとはき師の役割（2）
23	社会的ニーズとはき師の役割（3）
24	社会的ニーズとはき師の役割（4）
25	社会的ニーズとはき師の役割（5）
26	施術所の経営展開（1）
27	施術所の経営展開（2）
28	施術所の経営展開（3）
29	施術所の経営展開（4）
30	施術所の経営展開（5）
31	定期試験
32	試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅷ ）

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

現代医学的な検査、鑑別、施術計画の基本を理解する。

2 到達目標

現代医学に基づいた施術ができるようになる。

3 授業の方法

学生ペアで実技を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

はりきゅう理論の第8章と第9章と第10章を復習すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう理論 第3版」・「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「徒手検査インパクト」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

今まで習った現代医学の知識を生かして、患者の主訴に合わせた検査を行い、病態を鑑別することができます。また、現在明らかになっている鍼灸の治功機序に基づいた施術を行うことで、より再現性の高い効果が期待できます。現代医学系の科目をしつかりと復習して授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技Ⅷ)

回数	授業内容
1	伝変と波及 (1) 過去
2	伝変と波及 (2) 未来
3	相互施術 (1)
4	相互施術 (2) ペア交代
5	相互施術 (3)
6	相互施術 (4) ペア交代
7	相互施術 (5)
8	相互施術 (6) ペア交代
9	相互施術 (7)
10	相互施術 (8) ペア交代
11	相互施術 (9)
12	相互施術 (10) ペア交代
13	相互施術 (11)
14	相互施術 (12) ペア交代
15	定期試験 (実技試験)
16	答案返却および解説
17	古代刺法 (1) 九刺
18	古代刺法 (2) 十二刺
19	古代刺法 (3) 五刺
20	古代刺法 (4) まとめ
21	生理事物質
22	臓腑
23	経絡
24	病因
25	陰陽
26	五行
27	四診
28	弁証
29	論治
30	まとめ
31	定期試験 (実技試験)
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅳ ）

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験し，一部を模倣・実践する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 患者に対して適切な対応ができる。
- ・情報収集・記録 医療面接を実施し，SOAP形式で記録できる。
- ・施術へのアプローチ 施術計画を立案し，一部を実践できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の提出物，試験をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，質問するなど自ら調べ，記録すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう臨床実習Ⅳ)

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
2	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
3	施術所の運営および施術の体験・練習 (1) 4 5 分
4	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
5	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
6	施術所の運営および施術の体験・練習 (2) 4 5 分
7	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
8	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
9	施術所の運営および施術の体験・練習 (3) 4 5 分
10	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
11	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
12	施術所の運営および施術の体験・練習 (4) 4 5 分
13	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
14	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
15	施術所の運営および施術の体験・練習 (5) 4 5 分
16	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
17	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
18	施術所の運営および施術の体験・練習 (6) 4 5 分
19	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
20	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
21	施術所の運営および施術の体験・練習 (7) 4 5 分
22	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
23	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
24	施術所の運営および施術の体験・練習 (8) 4 5 分
25	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
26	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
27	施術所の運営および施術の体験・練習 (9) 4 5 分

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域Ⅲ)

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸師として必要な基礎医学（生理学・解剖学）領域の知識のおさらいを中心に総合的に学習する。

2 到達目標

国試過去問をベースに，毎回の小テストで満点をめざす。

3 授業の方法

国家試験の過去問を中心に，数多くの問題を解き，問題ごとに解説を加える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

間違った解答はその場で修正し，正しい解答と背景をその日のうちに掴んで帰る。

7 使用教材，教具

「生理学」（改定第3版）医歯薬出版

「解剖学」（改定第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

3年生はいよいよ国家試験受験のための総仕上げをする学年です。

これまで学習した知識を総動員して，鍼灸師として必要な基礎医学的な現象をより深く総合的に理解するよう心がけましょう。

9 教員氏名 (伊藤 元太郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域Ⅲ)

回数	授業内容
1	解剖学領域の総合的知識整理 1 復習混合問題
2	解剖学領域の総合的知識整理 2 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器A (1)
3	解剖学領域の総合的知識整理 3 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器A (2)
4	解剖学領域の総合的知識整理 4 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器A (3)
5	解剖学領域の総合的知識整理 5 消化器B・泌尿器・生殖器・神経系A (1)
6	解剖学領域の総合的知識整理 6 消化器B・泌尿器・生殖器・神経系A (2)
7	解剖学領域の総合的知識整理 7 消化器B・泌尿器・生殖器・神経系A (3)
8	解剖学領域の総合的知識整理 8 神経系B・感覚器・運動器総論 (1)
9	解剖学領域の総合的知識整理 9 神経系B・感覚器・運動器総論 (2)
10	解剖学領域の総合的知識整理 10 神経系B・感覚器・運動器総論 (3)
11	解剖学領域の総合的知識整理 11 上肢・下肢・頭頸部 (1)
12	解剖学領域の総合的知識整理 12 上肢・下肢・頭頸部 (2)
13	解剖学領域の総合的知識整理 13 上肢・下肢・頭頸部 (3)
14	解剖学領域の総合的知識整理 14 総合問題
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	生理学領域の総合的知識整理 1 混合問題
18	生理学領域の総合的知識整理 2 血液・免疫・心臓・循環・呼吸 (1)
19	生理学領域の総合的知識整理 3 血液・免疫・心臓・循環・呼吸 (2)
20	生理学領域の総合的知識整理 4 血液・免疫・心臓・循環・呼吸 (3)
21	生理学領域の総合的知識整理 5 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄 (1)
22	生理学領域の総合的知識整理 6 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄 (2)
23	生理学領域の総合的知識整理 7 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄 (3)
24	生理学領域の総合的知識整理 8 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系 (1)
25	生理学領域の総合的知識整理 9 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系 (2)
26	生理学領域の総合的知識整理 10 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系 (3)
27	生理学領域の総合的知識整理 11 筋・運動調節・感覚 (1)
28	生理学領域の総合的知識整理 12 筋・運動調節・感覚 (2)
29	生理学領域の総合的知識整理 13 筋・運動調節・感覚 (3)
30	生理学領域の総合的知識整理 14 総合問題
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域IV)

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」・「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験での症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名 (山口 侃太)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域Ⅳ)

回数	授業内容
1	養生について
2	第1節(1)頭痛
3	第1節(2)顔面痛
4	第1節(3)関節痛
5	第1節(4)頸肩腕痛・上肢痛・肩関節痛
6	第1節(5)腰下肢痛・腰痛・下肢痛・膝痛
7	第1節(6)胸痛
8	第1節(7)腹痛
9	第3節(1)疲労と倦怠感
10	第3節(2)発熱
11	第3節(3)冷え
12	第3節(4)のぼせ
13	第3節(5)浮腫
14	第3節(6)掻痒感, 肌荒れ, 発疹
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第4節(1)顔面麻痺
18	第4節(2)歩行異常
19	第4節(3)口渇
20	第4節(4)出血傾向
21	第5節(1)月経異常
22	第5節(2)性器出血
23	第5節(3)帯下
24	第5節(4)不妊症
25	第5節(5)つわり
26	第5節(6)骨盤位
27	第5節(7)乳汁分泌不全
28	第6節(1)疳の虫
29	第6節(2)夜尿症・小児喘息
30	第7節(1)認知症
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域V)

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

これまで学んだ生理学や臨床医学総論の授業の内容から、よくみられる疾患や病態などを問題演習を通して学び、より深く知識と理解を得ることを目的とする。

2 到達目標

鍼灸の治効機序を理解し、症状や検査法から病態把握を行い治療へ繋げることができる。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習 (予習・復習等)

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。
授業後には必ず復習をして、知識の定着に努めてください。

7 使用教材, 教具

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社, 「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂
「リハビリテーション医学」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

患者さんへの施術を行うと、多くの知識が必要であることを実感します。これまでの学習を復習しながら人体の構造を理解し、多方面から推測する力をつけ、疾患、治療の知識を付けましょう。

9 教員氏名 (伊藤 元太郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 総合領域Ⅴ ）

回数	授業内容
1	総合演習 東洋医学臨床論 頰部の徒手検査
2	総合演習 東洋医学臨床論 肩部の徒手検査
3	総合演習 東洋医学臨床論 上肢の徒手検査
4	総合演習 東洋医学臨床論 腰部の徒手検査
5	総合演習 東洋医学臨床論 腰下肢の徒手検査
6	総合演習 東洋医学臨床論 下肢の徒手検査
7	総合演習 東洋医学臨床論 疾患と治療穴①
8	総合演習 東洋医学臨床論 疾患と治療穴②
9	総合演習 東洋医学臨床論 疾患と治療穴③
10	総合演習 東洋医学臨床論 解剖と経穴①
11	総合演習 東洋医学臨床論 解剖と経穴②
12	総合演習 東洋医学臨床論 解剖と経穴③
13	総合演習 東洋医学臨床論 総合問題①
14	総合演習 東洋医学臨床論 総合問題②
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	総合演習 リハビリテーション医学 「リハ医学の概要」
18	総合演習 リハビリテーション医学 「医学的リハビリテーションの概要」
19	総合演習 リハビリテーション医学 「障害の評価」①
20	総合演習 リハビリテーション医学 「障害の評価」②
21	総合演習 リハビリテーション医学 「リハビリテーション治療」①
22	総合演習 リハビリテーション医学 「リハビリテーション治療」②
23	総合演習 リハビリテーション医学 「脳卒中のリハビリテーション」
24	総合演習 リハビリテーション医学 「脊髄損傷のリハビリテーション」
25	総合演習 リハビリテーション医学 「切断のリハビリテーション」
26	総合演習 リハビリテーション医学 「小児のリハビリテーション」
27	総合演習 リハビリテーション医学 「神経疾患のリハビリテーション」
28	総合演習 リハビリテーション医学 「高齢者のリハビリテーション」
29	総合演習 リハビリテーション医学 「運動学」①
30	総合演習 リハビリテーション医学 「運動学」②
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域VI)

学科名 鍼灸科

学 年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

小テスト 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」・「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験での症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名 (山口 侃太)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域VI)

回数	授業内容
1	第2節(1) 眼精疲労
2	第2節(2) 気分障害
3	第2節(3) めまい 45分
4	第2節(4) 動悸
5	第2節(5) 血圧異常
6	第2節(6) 睡眠異常 45分
7	第2節(7) 食欲不振
8	第2節(8) 肥満・やせ
9	第2節(9) 悪心・嘔吐 45分
10	第2節(10) 便秘・下痢
11	第2節(11) 歯痛
12	第2節(12) 咳嗽と喀痰 45分
13	第2節(13) 呼吸困難
14	第2節(14) 鼻閉・鼻汁
15	第2節(15) 脱毛症 45分
16	第2節(16) 耳鳴り・難聴
17	第2節(17) 排尿障害
18	第2節(18) ED 45分

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域Ⅶ)

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸師として必要な分野である衛生学・公衆衛生学，医療概論，関係法規，解剖学などの理解度を認識し，不足している知識を補うことを目的とする。

2 到達目標

毎回出題する問題の各正答率が6割を超える。

3 授業の方法

国家試験問題，模擬試験問題を中心に講義・解説を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等)

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。
授業後には，必ず復習し知識の定着に努めてください。

7 使用教材，教具

「衛生学・公衆衛生学」、「医療概論」、「関係法規」、「解剖学」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

- ・鍼灸師として臨床を行う際，患者と施術者双方を守るために必要な，実地的な知識を確認して卒業後に備えましょう。(宮田 純)
- ・復習を繰り返し知識を定着させましょう。(伊藤 元太郎)

9 教員氏名 (宮田 純, 伊藤 元太郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域Ⅶ)

回数	授業内容
1	公衆衛生学 1章「衛生学の意義」, 2章「健康」
2	解剖学 細胞と組織
3	公衆衛生学 3章「ライフスタイルと健康」
4	解剖学 運動器系 骨格
5	公衆衛生学 4章「環境と健康」
6	解剖学 運動器系 筋
7	公衆衛生学 5章「産業保健」
8	解剖学 循環器系 心臓と脈管①
9	公衆衛生学 6章「精神保健」
10	解剖学 循環器系 心臓と脈管②
11	公衆衛生学 7章「母子保健」
12	解剖学 呼吸器系
13	公衆衛生学 8章「学校保健」
14	解剖学 消化器系
15	公衆衛生学 9章「成人・高齢者保健」
16	解剖学 泌尿器系
17	公衆衛生学 10章「感染症とその対策」
18	解剖学 生殖器系
19	公衆衛生学 11章「消毒法」
20	解剖学 内分泌系
21	公衆衛生学 12章「疫学」, 13章「統計」
22	解剖学 神経系①
23	医療概論・関係法規 「現代の医療制度」
24	解剖学 神経系②
25	医療概論・関係法規 「患者の権利・施術者の倫理」
26	解剖学 感覚器系①
27	医療概論・関係法規 「あはき法」
28	解剖学 感覚器系②
29	定期試験
30	定期試験
31	試験解説, 復習
32	試験解説, 復習

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域Ⅷ)

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

2年生で学んだ病理学、臨床医学総論の知識を、演習問題を中心に復習し、生体の機能構造から疾患を理解し、必要な検査法を正確に行えるよう知識を深める。

2 到達目標

医療従事者として必要な病気についての基礎知識（疾病の種類・原因・形態・機序など）を学習し、人体と疾患の関係性について理解を深める。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

演習問題を課題とすることもあるので、次回授業時までに必ず自学しておくこと。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・授業資料での予習・復習を行い、国家試験過去問等を解くこと。

7 使用教材，教具

「病理学概論」医歯薬出版

「臨床医学総論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

2年生で学んだ「病理学」、「臨床医学総論」の内容を、演習問題でよりフォーカスして授業していきます。特に理解が足りていない箇所は訂正ノートを作成して確実に身につけるようにして下さい。

9 教員氏名 (宮田 純)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域Ⅷ)

回数	授業内容
1	総合演習 病理学概論 2章 (疾病について)、3章 (病因)
2	総合演習 病理学概論 4章 (循環障害)、5章 (退行性病変)
3	総合演習 病理学概論 6章 (進行性病変)、7章 (炎症)
4	総合演習 病理学概論 8章 (腫瘍)、9章 (免疫異常・アレルギー)
5	総合演習 病理学概論 10章 (先天性異常)
6	総合演習 病理学概論 全範囲 (1)
7	総合演習 病理学概論 全範囲 (2)
8	総合演習 臨床医学総論 2章 (診察の方法)、3章 (生命兆候)
9	総合演習 臨床医学総論 4章 (全身の診察)、5章 (局所の診察)
10	総合演習 臨床医学総論 6章 (神経系の診察)
11	総合演習 臨床医学総論 7章 (運動機能検査)
12	総合演習 臨床医学総論 8章 (その他の診察)、9章 (臨床検査法)
13	総合演習 臨床医学総論 10章 (おもな症状の診察法)
14	総合演習 臨床医学総論 全範囲
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域IX)

学科名 鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

国家試験に向けた問題演習を行い、不足する学力を把握し、補うことを目的とする。

2 到達目標

問題演習を通じて苦手分野を早期に把握し、知識を補充し、国家試験に合格できる力を身につける。

3 授業の方法

- ・ 国家試験と同等の難易度である問題を180問解答する。
- ・ 問題演習の時間は国家試験と同様とする。
- ・ 問題演習後、解説レポートを作成し、面談を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

解説レポートを作成し、期日厳守で提出すること。提出をもって評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に対象科目を復習し、準備して臨むこと。また、解説レポートは後日復習をする自分の資料として役に立つように作成すること。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会

8 学生へのメッセージ

国家試験の本番を意識した問題演習は、自分の弱点探しです。自分の弱点を見つけ、一つずつ解決していきましょう。

9 教員氏名 (伊藤 元太郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域IX)

回数	授業内容	
1	第1回 学力向上演習① 問題演習	
2	第1回 学力向上演習② 解答	
3	第1回 学力向上演習③ 解説	
4	第1回 学力向上演習④ 解説レポート作成	
5	第2回 学力向上演習① 問題演習	
6	第2回 学力向上演習② 解答	
7	第2回 学力向上演習③ 解説	
8	第2回 学力向上演習④ 解説レポート作成	
9	第3回 学力向上演習① 問題演習	
10	第3回 学力向上演習② 解答	
11	第3回 学力向上演習③ 解説	
12	第3回 学力向上演習④ 解説レポート作成	
13	第4回 学力向上演習① 問題演習	
14	第4回 学力向上演習② 解答	
15	第4回 学力向上演習③ 解説	
16	第4回 学力向上演習④ 解説レポート作成	
17	第5回 学力向上演習① 問題演習	
18	第5回 学力向上演習② 解答・解説	
19	第5回 学力向上演習③ 解説レポート作成	45分
20	第6回 学力向上演習① 問題演習	
21	第6回 学力向上演習② 解答・解説	
22	第6回 学力向上演習③ 解説レポート作成	45分
23	第7回 学力向上演習① 問題演習	
24	第7回 学力向上演習② 解答	
25	第7回 学力向上演習③ 解説	
26	第7回 学力向上演習④ 解説レポート作成	
27	第8回 学力向上演習① 問題演習	
28	第8回 学力向上演習② 解答	
29	第8回 学力向上演習③ 解説	
30	第8回 学力向上演習④ 解説レポート作成	
31	第9回 学力向上演習① 問題演習	
32	第9回 学力向上演習② 解答	
33	第9回 学力向上演習③ 解説	
34	第9回 学力向上演習④ 解説レポート作成	
35	第10回 学力向上演習① 問題演習	

36	第10回 学力向上演習② 解答
37	第10回 学力向上演習③ 解説
38	第10回 学力向上演習④ 解説レポート作成
39	第11回 学力向上演習 問題演習、解答・解説